

高松体指たより

VOL. 31



H21.12.6 第12回 高松市元気ハツラツドッジボール大会(高松市総合体育館)
第3回 高松市クイーンズカップドッジボール大会(高松市総合体育館)



H22.2.7 第2回 高松市ダイヤゾーンボール大会(高松市総合体育館)



H21.11.19~20 第50回全国体育指導委員研究協議会(山口県)

のびのびスポーツ!!
いきいきけんこう!!

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~taishi-takamatsu/>

第三十回 さわやかママさんソフトボール大会 & 第十一回 高松市六十歳以上男子スローピッチソフトボール大会

（さわやかママさん）

- 優勝 花園校区
- 準優勝 中央校区
- 第三位 太田校区



優勝チームコメント

花園校区 監督 英 直子

久々の優勝！ソフト馬鹿の仲間が週一練習と家での素振り・キャッチボール。

花園同好会や家族の協力と個々の努力の結果です。今年はインフルエンザで四苦八苦し人数下度、その中で「優勝狙う、皆に良い報告したい。」そんなチームの絆と仲間思いなメンバーを誇りに思いました。学生時代に、何に対しても諦めない、感謝する、さわやかに挨拶、自分を見つめ直し子どもたちにも泥々でも楽しんだ感動を伝えたい！最高の仲間と支えてくださった方々ありがとうございました。

優勝チームコメント

新塩屋町校区 三谷 敏美

- （六十歳以上男子）
- 優勝 新塩屋町校区
- 準優勝 屋島西校区
- 第三位 下笠居校区



十一月一日に行われた大会では、途中よりの雨の中の大会となりましたが、選手の人

数も交代要員が居ないにも関わらず、決勝まで残り試合は出来ませんでした。今年も優勝する事が出来、嬉びを感じております。

●部長講評

ソフトボール部長 森本 栄治

節目となる第三十回大会を迎えたさわやかママさんソフトボール、第十一回大会となる六十歳以上スローピッチソフトボール。今年も秋空のもと（とはいえ思わしくない天気の中）女子十二チーム、男子十二チームが参加しての白熱したゲームが繰り広げられました。途中からは雨になり、足元の悪い中の決勝戦となりましたが、女子は花園チーム、男子は新塩屋町チームが抽選の末優勝となりました。両チームの皆様おめでとうございます。大変な大会の運営にご尽力くださいました体指の皆様改めて感謝を申し上げます。お疲れ様でした。

第十二回 高松市元気ハツラツドッジボール大会 & 第三回 高松市クイーンズカップドッジボール大会

（元気ハツラツ）

- 優勝 林 校区
- 準優勝 太田校区
- 三位 二番丁校

（クイーンズカップ）

- 優勝 中央校区
- 準優勝 太田校区
- 三位 一宮校区

優勝チームコメント

林校区チーム 主将 木村 哲也

監督には練習のときに予選突破も危ないうって言われていたので、優勝は、かなり予想外でした。みんながそれぞれの役割をこなし結果だと思えます。

優勝チームコメント

中央校区チーム 泉川 美喜子

「ドッジボール大会！」出てみたい!! 「じゃ、ルールは……」

校区男性チームとの練習のお力添えにより、チーム内での役割、信頼感ができました。いざ本番！白熱したゲームへ応援。

みごと、初出場での優勝!! 感無量です。体育指導委員の皆様ありがとうございました。

●ドッジボール大会講評

ドッジボール部副部長 上原 誠子

平成二十二年十二月六日、元気ハツラツ&クイーンズカップドッジボール大会が、市総合体育館で行われました。外は師走に入ったんだな、と思わせる寒い一日でしたが、体育館の中は熱気ムンムンの白熱したゲームが続く、決勝トーナメントに残ったチームの技には目をみはるものがあり感心しました。選手のバフォーマンスもさることながら、線審をしている体指のバフォーマンスも、機敏な動作や笛を吹くタイミングなど、試合数をこなす度に上手くなってきたと感じました。来年まで忘れなくてください。女性の方も積極的に線審をしてください。結構楽しいですよ。様々な反省を踏まえて、来年もより良い大会にしていきたいと思えます。体指の皆さん、ドッジボール協会の皆さん、早朝から夕方までご協力いただきまして本当にありがとうございました。

第二回 高松市ダイヤモンドボール大会

- 優勝 香南校区
- 準優勝 木太北校区
- 三位 大野校区
- 敗者戦優勝 弦打校区

優勝コメント

香南校区 山城 雅彦

香南校区はダイヤモンドボール大会に今回初めて参加させていただきました。結果は優勝！（すこいつ！）

予選は一勝一敗ながら得点差で決勝トーナメント進出という運にも恵まれ、また、選手の皆さんが「試合」こと上手になつていった事が勝因だと思います。

大会では若い方から年配の方まで色々な方達と交流が出来て大変楽しい大会でした。選手、役員の皆様お疲れ様でした。

●講評

普及部副部長 丸吉 江利子

第二回ダイヤモンドボール大会が二月七日高松市総合体育館で行われました。優勝は熱い監督率いる香南校区、準優勝は八十六歳と六十二歳、親子で参加の木太北校区、二年連続三位の大野校区、四位にはとてもゲームを楽しんでいた松島校区、敗者復活グループの頂点は弦打校区でした。

第二回の反省点をふまえ、対戦時間検討、コート設置・入退場の仕方・入場時のゼッケン着用・オーダー用紙の提出・敗者復活戦の採用等工夫しました。選手からは、「おもしろいゲームだった。また来年参加したい。」と



いう声も返ってきましたが反面課題も多い大会でした。ダイヤゾーンに対してとても責任感のある部長、協力を惜しまない部員、熱心に練習に取り組んでくれた地区体協あつての普及部でした。大会進行に関してはまだまだ課題があります。第三回に向けて多くの意見をお願いします。

■第二回高松市ダイヤゾーン・ボール大会に参加して

弦打地区体育協会 大西 輝清

体育指導委員の統一された運営に感謝すると共に、三十二チームが四コートに分れ長時間の中各チーム特色を出し合い、技を競いました。我が弦打も檜紙体協さん他三校区で、ルールの指導をして頂き、大会に臨みました。予戦では一勝敗でしたが、他の校区の棄権があり、敗者特別戦に進み(ラッキー)見事優勝しました。楽しくおもしろくをモットーに共同作業の結果、僅差の連続で勝ち上がり、最終戦では最高得点の八十六点を出しました。五試合した中、全員一度はホールの鐘を鳴らすことも出来ました。また、試合中対戦相手と和気あいあいとコミュニケーションを図ることも出来大変楽しかったです。今後も、体協、体指が一体となり、様々な大会を開催されることと思います。我々も前向きに参加して行けることを楽しみにしています。

■ダイヤゾーンボール大会展覧

二番丁校区 福井 眞里

予選を好成績で終え、日新体協の二連覇かと思ったら何と、決勝トーナメント一回戦で敗退してしまいました。

対戦相手の大野体協も日新体協も、ルー

ルをよく熟知し、ただゾーンに乗せ、ゲートを通すだけのプレーでなく、次のプレーやチームに有利な試合運びをする、攻守ともに考えたプレーのできるチームだと思いました。

でも、その大野体協も優勝することはできませんでした。決勝に残ったのは、香南体協と木太北部体協。両チームとも、ゲートボール経験者で、コツコツと進めて行く同じタイプのチームで、本当に僅差での優勝、準優勝でした。

また、今大会に実施された敗者戦の優勝チームは、何と、敗者戦に棄権チームがあり、繰り上げ出場したチームが優勝し、それも今大会最高得点をだしたの優勝！

どの競技においてもそうだが、日ごろの練習と、最後まで集中できるかどうかで勝敗が決まる。また二回目の大会なので、相手のボールに遠慮し、フエチなプレーをしているが、回を重ね、ルールが分かってくると、相手のボールを弾き飛ばしたりして、頭脳的(いやらしい)熱のこもったゲーム展開になるのでは…?

参加メンバーを見ても、かなり年齢層の高い人が多く、体育指導委員主管の行事では、年齢層の高い人の種目として定着するのではと思います。既に大会後、スポーツ店には老人会から用具の問い合わせの電話があると聞いています。十年以上かけて温めてきた競技だけに、今後の普及に期待します。



第五十回全国体育指導委員

研究協議会に参加して

平成二十二年十二月十九日・二十日開催

植田校区 喜多 知佳

山口県で開催された第五十回体育指導委員研究協議会に参加しました。また紅葉には少し早い景色を見ながら到着した会場の山口スポーツ文化センターはすでに全国から集まった千人近い指導委員の人々の熱気であふれていました。開会式に続いての受賞式では、スクリーンに名前が映し出される度の大きな拍手と共に、林田副会長、釜整理事、優良団体高松市連絡協議会の皆様が表彰されました。受賞おめでとうございます。表彰式のあとは「自分という人生の長距離ランナー」と題してスポーツジャーナリストの増田明美さんの記念講演があり、時折会場の人々への質問を交えながらマラソンランナー時代、また現役を退いてから現在に至るまでの体験談を基に地域におけるスポーツ環境やスポーツの魅力、熱く優しく教えて頂きました。退場時には都はるみさんの歌まねでステージを後にするなど最後まで会場を沸かせ、とても魅力的な増田明美さんでした。

二日目の自発研修で訪れた熊野磨崖仏では、約三〇〇メートルの急な坂道、乱積の石段登りなど、これぞ体育指導委員研修！と、痛感させられるなかなかハードなものでしたが、汗だくになりながら登りきった時の満足感はとても思い出深いものとなりました。定例会や主管行事だけでは決して見ることができなかったであろう体指の皆さんの楽しい姿の数々…

参加して本当に良かったです。

檜紙校区 川股 一文

僕が体育指導員になって初めての全国体育指導委員研究協議会に参加してきました。早朝からワクワクしながら準備して、お昼前には山口県スポーツ文化センターに到着しました。まず、最初に驚いたのが体育指導委員の人数!!後から聞けば三千五百人というすごい人数でした。とりわけ目立っていた高松市の赤いジャンパーのおかげで迷子にはならずすみしました(笑)

スポーツジャーナリストの増田明美さんの楽しい話を聞き、シンポジストの先生方の話でいろいろと考えさせられ、話を聞くのに没頭できました。

体育指導委員として地域にどれだけ新しいスポーツを広めていくかとか、今どういう立場なのか、僕にはちゃんとそういうことができるかとか、久しぶりに考えてしまいました。難しいことは考えずに、今できることからしていこうと前向きに考えているところでシンポジウムは終わりました。最初の1日目はこういう感じでちよつと疲れましたが、2日目、3日目は他の体育指導委員の方たちと楽しく過ごせました。

これからもこういう機会があればぜひ参加して、いろいろな人たちとふれあつて自分を磨きあげていきたいと思えます。

まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることもありますが、先輩方、どうぞよろしくお願います!!



文部科学大臣表彰を受賞して

香西校区 林田 八重子

平成二十二年十一月十九日・二十日の両日に、第五十回全国体育指導委員研究協議会が山口県スポーツ文化センターで盛大に開催されました。香川県からは私が受賞させて頂き、大変身に余る光栄です。体育指導委員にとつて、このような最高の名誉ある賞を頂きましたのも、行政・地域の方々ならびに城門会長を始め仲間の皆様方のお陰であると感謝の気持ちで一杯です。今後、受賞に恥じないよう生涯スポーツの推進に微力ながら寄与していきたいと思っております。また、この受賞を機に心も新たに、より一層地域活動に励む所存でございます。長年に渡り体育指導委員の活動に理解と協力をしてくれた家族にも感謝しています。

第五十回全国体育指導委員連合・ 体育指導委員功労者表彰を受賞して

下笠居校区 釜埜 房夫

研究協議会当日、会場である山口県スポーツ文化センターへ向かいました。全国から体育指導委員の仲間がたくさん参加していました。五十回目の節目に私は体育指導委員功労者を受賞させて頂きました。身に余る光栄にびびったり恐縮したり。私は体育指導委員になり二十四年になります。その間、国体の協力や香川での全国体指開催など貴重な体験をさせて頂きました。これも地区の皆様方、体育指導委員の皆様のご指導、御協力の賜物と感謝申し上げます。また表彰式では、文部科学大臣表彰を林田副部長が受賞されました。永年香川の体育指導委員の指導をしてい

ただきました。本当におめでとうございました。これからも私運体育指導委員の育成、ご指導をお願いいたします。

それに加えて平成二十二年年度優良団体表彰を高松体育指導委員が受賞いたしました。最後になりましたが会長をはじめ一緒に参加されました皆様 本当におめでとうございました。



四国地区体育指導委員協議会 会長表彰を受賞して

屋島西校区 竹川 直樹

昨年七月より、入院治療の為長らくみなさんに迷惑、心配をお掛けしましたのに、四国地区会長表彰を受賞させて頂きました。身が引き締まる思いです。受賞を機に初心に帰って頑張る気持ちでいっぱいです。これから何期お手伝い出来るか分かりませんが、精一杯がんばって体指のみなさんと楽しく活動出来るようにしたい。これからもみなさんのご指導よろしくお願いします。久々に四国体指研修会に参加して、みなさんと食事、会話出来た事、大変楽しかったです。ありがとうございました。

第四十二回四国地区体育 指導委員研修会に参加して

四番丁校区 岡本 志津代

まずは、参加して良かったなどの、思いに尽きる。今まで、家のことや、仕事の都合で、なかなか参加できずいたが、今年その機会に巡り合うことが出来た。

講演もオリンピック四大大会連続出場の武田大作選手と日本赤十字社愛媛県支部事業推進課長加地弘明先生の講義どちらも、素晴らしいお話で、ためになる講義でした。

武田大作選手の講演は、夢を持ちつつける事の大切さや、何でも思った事を、思いつけ、それにむけて努力する事の素晴らしさを教えてもらうことができました。オリンピックに出るというだけでも物凄く努力とセンスが必要だと思ふのに、四大大会連続出場という選手の話の聞いただけでも私には、いい刺激だった。

また、加地弘明先生の講義は、内容は勿論のこと、話術に引き込まれずにはいられない。面白く、どんどん先生の世界の中に連れて行かれる様だった。映像が出てくると、言ったほうが解りやすいかもしれない。講義の題も「笑いと健康」なのだが笑いタップリで元氣になれた気がしたのは私だけではないと思う。また、内容は、四つに分けられる。一つに、軽い運動でも、十分高齢者には、意味があるというはなし。今後、地元で活動するときに、考えて行きたい。こども教室は毎年行ってきたが、高齢者教室もいなど思ったのだ。一つめ、二つめは応急処置についてだった。どちらもケガをした人が最初にとった姿勢が一番そのケガに良い姿勢なのだ、初めて知った。そのような現場に遭遇したときは、慌てず教えて頂いた事を実践していきたい。

最後の話は、目から鱗というか、ああそうなんだ、といった思うものだった。人は、期待や尊敬をされる事で持つている力の120%の力を発揮できる。素晴らしい力を持っている、と言う話だった。これらのことを、分かりやすく、話していただいた。

これから体育指導委員として、活動する中で、大切にしていこうと思う。

インフォメーション

【お悔やみ】

加藤 富夫(実父) 古高松南校区
山本 通夫(実母) 一宮校区

【お見舞い】

松本 英毅 太田南校区

編集後記

年度末は何かとお別れが多い時期ではありますが、今期で退任される体指のみなさまにおかれましては大変お疲れさまでした。

また何かの機会にお逢いできるのを楽しみにしています。

今期最後の体指だよりVOL.31をお届けします。

広報部副部長 西川 良二

発行／高松市体育指導委員
連絡協議会
編集人／城門 政文
編集／広 報 社
印刷所／万 成 社

題 字・高松市長 大西 秀人